

教科	数学	学年	1	年	時間数	140	時間
----	----	----	---	---	-----	-----	----

教科書名	未来へひろがる数学1 未来へひろがる数学2	出版社名	啓林館
------	-----------------------	------	-----

学期	月	指導計画		評価の観点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	関	思	技	知	
一 学 期	4	第1章 正の数・負の数	1 0より小さい数 2 正の数・負の数で量を表すこと	○	○	○	◎	<p>授 業 の 概 要</p> <p>負の数の意味を理解し、正の数・負の数の四則計算を学びます。 文字を使って、数量や数量の間の関係を一般的に表し、その計算方法を学びます。 方程式とその解について理解し、方程式の解法を学びます。 図形の性質や、基本的な図形の作図方法について学びます。 資料の整理の仕方について学びます。</p> <p>学 習 の 到 達 目 標</p> <p>・正の数・負の数の四則計算ができる。 ・文字の式の意味について理解し、文字式の計算ができる。 ・比例・反比例を式やグラフなどで表し、具体的な事象の考察に用いる。 ・基本的な図形の性質を理解する。 ・資料を整理し、活用する力を身に付ける。</p>
		第1節 正の数・負の数	3 絶対値と数の大小	○	○	○	◎	
		第2節 正の数・負の数の計算	1 正の数・負の数の加法、減法 2 加法と減法の混じった計算 3 正の数・負の数の乗法、除法 4 乗法と除法の混じった計算 5 いろいろな計算 6 数の世界のひろがりや四則計算	○	◎	○	○	
		中間考査(5/15～5/16)		○	◎	○	○	
	5	第2章 文字の式	1 数量を文字で表すこと	○	○	○	◎	
		第1節 文字を使った式	2 文字式の表し方 3 式の値	○	○	○	◎	
		第2節 文字式の計算	1 文字式の加法、減法	○	○	◎	○	
		第3章 方程式	2 文字式と乗法、除法 3 関係を表す式 1 方程式とその解	○	○	◎	○	
	6	期末考査3年(6/27～7/3) 期末考査1・2年(6/28～7/3)		○	◎	○	○	
		第1節 方程式	2 方程式の解き方 3 比と比例式	○	○	◎	○	
		第2節 方程式の利用	1 方程式の利用	○	◎	○	○	
		夏季休業日(7/21～8/26)						
二 学 期	7	第4章 変化と対応	1 関数	○	○	○	◎	<p>評 価 の 観 点</p> <p>関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度</p> <p>様々な事象を数量や図形などでとらえたり、それらの性質や関係を見いだしたりするなど、数学的に考え表現することに関心をもち、意欲的に数学を問題の解決に活用して考えたり判断したりしようとする。</p> <p>数 学 的 な 見 方 や 考 え 方</p> <p>数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を活用しながら、事象を見通しをもって論理的に考察し表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりするなど、数学的な見方や考え方を身に付けている。</p> <p>数 学 的 な 技 能</p> <p>正の数と負の数の四則計算ができ、数量の関係や法則を方程式などを用いて表現し処理したり、基本的な図形の作図や図形の計量をしたり、関数関係を的確に表現したり、資料を整理したりするなど、技能を身に付けている。</p> <p>知 識 ・ 理 解</p> <p>正の数と負の数、文字を用いることの必要性和意味、一元一次方程式、文字式のはたらき、連立二元一次方程式、平面図形についての性質や関係、空間における図形の位置関係、関数関係や比例・反比例、ヒストグラムや代表値などを理解し、知識を身に付けている。</p> <p>評 価 方 法</p> <p>学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「数学的な見方や考え方」、「数学的な技能」、「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。</p> <p>備 考</p>
		第1節 関数	1 比例の式 2 座標	○	○	○	◎	
		第2節 比例	3 比例のグラフ	○	○	◎	○	
		第3節 反比例	1 反比例の式 2 反比例のグラフ	○	○	◎	○	
	8	第4節 比例、反比例の利用	1 比例、反比例の利用	○	◎	○	○	
		第5章 平面図形	1 直線と角 2 図形の移動	○	○	○	◎	
		中間考査(10/9～10/10)		○	○	○	◎	
		第1節 直線図形と移動	1 基本の作図	○	○	◎	○	
	9	第2節 基本の作図	1 円とおうぎ形の性質	○	○	○	◎	
		第3節 円とおうぎ形	2 円とおうぎ形の計量	○	○	◎	○	
		第6章 空間図形	1 いろいろな立体	○	○	○	◎	
		第1節 立体と空間図形	2 空間内の平面と直線 3 立体のいろいろな見方	○	○	○	◎	
10	第2節 立体の表面積と体積	1 立体の表面積	○	○	◎	○		
	期末考査3年(11/28～12/4) 期末考査1・2年(11/29～12/4)		○	◎	○	○		
	2 立体の体積		○	○	◎	○		
	3 球の計量		○	○	◎	○		
三 学 期	11	冬季休業日(12/21～1/6)						
		第7章 資料の活用	1 度数分布 2 代表値と散らばり	○	○	○	◎	
		第1節 資料の傾向をとらえ説明しよう	3 近似値 4 調べたことをまとめ、発表しよう	○	◎	○	○	
		第1章 式の計算	1 式の加法、減法	○	○	◎	○	
	12	第1節 式の計算	2 いろいろな多項式の計算	○	○	◎	○	
		第2節 文字式の利用	3 単項式の乗法、除法	○	◎	○	○	
		学年末考査3年(2/22～2/28) 学年末考査1・2年(2/25～2/28)		○	◎	○	○	
		第2章 連立方程式	1 連立方程式とその解	○	○	◎	○	
	1	第1節 連立方程式	2 連立方程式の解き方	○	◎	○	○	
		第2節 連立方程式の利用	1 連立方程式の利用	○	○	◎	○	

シ ラ バ ス
平成30年度

愛媛県立宇和島南中等教育学校(前期課程)

教科	数学	学年	2	年	時間数	105	時間
----	----	----	---	---	-----	-----	----

教科書名	未来へひろがる数学2 未来へひろがる数学3	出版社名	啓林館
------	-----------------------	------	-----

学期	月	指導計画		評価の観点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	関	思	技	知	
一 学 期	4	2章 連立方程式 2節連立方程式の利用	1 連立方程式の利用	○	○	○	○	<p style="text-align: center;">授 業 の 概 要</p> 連立二元一次方程式を用いて、文章題の解き方を学習します。 ともなう変わる2つの数量の関係について調べます。 図形の性質の調べ方や、あることがらが正しいことを示す方法を学びます。 図形についてのいろいろな性質を見つけて、それを証明していきます。 ものごとの起こりやすさについて学びます。 二次方程式の解の求め方、文章題の解き方を学習します。
		第3章 一次関数 第1節 一次関数とグラフ	1 一次関数	○	○	○	○	
			2 一次関数の値の変化	○	○	○	○	
			3 一次関数のグラフ	○	○	○	○	
	5	中間考査(5/15～5/16)	1 方程式とグラフ	○	○	○	○	
		第2節 一次関数と方程式	2 連立方程式のグラフ	○	○	○	○	
			第3節 一次関数の利用	1 一次関数の利用	○	○	○	
	6	第4章 図形の調べ方 第1節 平行と合同	1 角と平行線	○	○	○	○	
			2 多角形の角	○	○	○	○	
		3 三角形の合同	○	○	○	○		
		期末考査3年(6/27～7/3) 期末考査1・2年(6/28～7/3)	"	○	○	○	○	
	7	第2節 証明	1 証明とそのしくみ	○	○	○	○	
2 合同条件を使った証明の進め方			○	○	○	○		
夏季休業日(7/21～8/26)								
二 学 期	8	第5章 図形の性質と証明 第1節 三角形 第2節 四角形	1 二等辺三角形	○	○	○	○	
			2 直角三角形の合同	○	○	○	○	
			1 平行四辺形の性質	○	○	○	○	
			2 平行四辺形になる条件	○	○	○	○	
	9	第6章 確率 第1節 確率の意味 第2節 確率の求め方	3 長方形、ひし形、正方形	○	○	○	○	
			4 平行線と面積	○	○	○	○	
			中間考査(10/9～10/10)					
			1 確率の意味	○	○	○	○	
	10	第1章 式の展開と因数分解 第1節 式の展開と因数分解	1 確率の求め方	○	○	○	○	
			1 式の乗法、除法	○	○	○	○	
			2 乗法の公式	○	○	○	○	
			3 素因数分解	○	○	○	○	
11	第2章 平方根 第1節 平方根	4 因数分解	○	○	○	○		
		期末考査3年(11/28～12/4) 期末考査1・2年(11/29～12/4)						
		1 式の計算の利用	○	○	○	○		
		1 平方根	○	○	○	○		
12	冬季休業日(12/21～1/6)							
三 学 期	1	第2節 根号をふくむ式の計算	2 平方根の値	○	○	○	○	
			3 有理数と無理数	○	○	○	○	
			1 根号をふくむ式の乗法、除法	○	○	○	○	
			2 根号を含む式の計算	○	○	○	○	
	2	第3章 二次方程式 第1節 二次方程式	1 二次方程式とその解き方	○	○	○	○	
			2 二次方程式の解の公式	○	○	○	○	
			学年末考査3年(2/22～2/28) 学年末考査1・2年(2/25～2/28)					
	3	第2節 二次方程式の利用	3 二次方程式と因数分解	○	○	○	○	
			"	○	○	○	○	
				○	○	○	○	
			1 二次方程式の利用	○	○	○	○	

教科	数学	学年	3	年	時間数	140	時間
----	----	----	---	---	-----	-----	----

教科書名	未来へひろがる数学3 改訂版 新編 数学A 改訂版 新編 数学I	出版社名	啓林館 数研出版
------	----------------------------------	------	----------

学期	月	指導計画		評価の観点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等		
		単元	内容	関	思	技	知			
一 学 期	4	3章 二次方程式 2節 二次方程式の利用	1 二次方程式の利用	○	◎	◎	○	<p>授業の概要</p> <p>二次方程式の解の求め方、文章問題の解き方を学習します。</p> <p>具体的な事象の中から、表・グラフ・式を使って、関数$y=ax^2$について理解します。</p> <p>三角形の相似条件を学び、相似の証明問題や線分の長さを相似比や三平方の定理を利用して求めていきます。</p> <p>「数学A」の平面図形・空間図形では、三角形や円などの基本的な図形の性質についての理解を深め、論理的に考察し処理できるようにします。また、様々な長さの線分の作図を学習します。</p> <p>「数学I」は式の見方や展開、因数分解の仕方を学習し、連立不等式や絶対値記号を含む方程式、不等式について学習します。また、集合についての基本的な事項を理解し、命題などの考察を通して、論理的な思考力を伸ばします。</p> <p>学習の到達目標</p> <p>・二次方程式を用いて実際の問題を解決したり、考察したりすることができる。</p> <p>・関数$y=ax^2$について、表・式・グラフ相互に関連付けることができる。また、関数$y=ax^2$を用いて具体的な事象をとらえ、説明できる。</p> <p>・三角形や円などの基本的な図形の性質について理解を深め、図形の性質を論理的に考察し処理することができる。</p> <p>・集合と論理について理解し、論理的な思考を伸ばすとともに、それらを命題などの考察に生かすことができる。</p> <p>・式の見方を豊かにし処理することで、不等式などの理解を深め、それらを活用できる。</p> <p>評価の観点</p> <p>関心・意欲・態度</p> <p>数学的な事象に関心をもつとともに、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、数学を活用して考えたり判断したりしようとする。</p> <p>数学的な見方や考え方</p> <p>事象を数学的にとらえて論理的に考察し表現したり、その過程を振り返って考えを深めたりするなど、数学的な見方や考え方を身に付けている。</p> <p>数学的な技能</p> <p>事象を数量や図形などで数学的に表現し処理する技能を身に付けている。</p> <p>知識・理解</p> <p>数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則などについて理解し、知識を身に付けている。</p> <p>評価方法</p> <p>学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「数学的な見方や考え方」、「数学的な技能」、「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト等」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。</p> <p>備考</p>		
		5	中間考査(5/15~5/16)	1 相似な図形		○	◎		○	
			5章 図形と相似 1節 図形と相似	2 三角形の相似条件	◎	○	○		◎	
		6	2節 平行線と線分の比	3 相似条件と証明	○	○	◎		○	
	1 平行線と線分の比			○	◎	◎	○			
	3節 相似な図形の計量		2 中点連結定理	○	◎	◎	○			
	4節 相似の利用		1 相似な図形の計量	◎	○	○	◎			
	7	4節 相似の利用	2 相似な立体の表面積・体積	○	◎	◎	○			
		6章 円の性質 1節 円周角と中心角	1 相似の利用		○	◎	○			
		2節 円の性質の利用	2 円周角の定理の逆	◎	○	○	◎			
		2節 円の性質の利用	1 円の性質の利用	○	◎	◎	○			
	8	7章 三平方の定理 1節 三平方の定理	1 三平方の定理	◎	○	○	◎			
2節 三平方の定理の利用		1 平面図形への利用	○	◎	◎	○				
8章 標本調査 1節 標本調査		2 空間図形への利用	○	◎	◎	○				
2節 標本調査		1 標本調査	◎	○	○	◎				
9	数学A 第2章 図形の性質	2 標本調査	◎	○	○	◎				
	第1節 平面図形	1 三角形の辺の比	○	◎	◎	○				
	中間考査(10/9~10/10)	2 三角形の外心・内心・重心		○	◎	◎	○			
		3 チェバの定理・メネラウスの定理		○	◎	◎	○			
10	第2節 空間図形	4 円に内接する四角形	○	○	◎	○				
		5 円と直線	○	◎	○	○				
		6 2つの円	○	◎	◎	○				
		7 作図	○	○	◎	◎				
11	第2節 空間図形	8 直線と平面	○	◎	◎	○				
		9 空間図形と多面体	○	○	◎	○				
		章末問題		○	◎	◎	○			
		1 整式の加法と減法	◎	○	◎	○				
12	2 整式の乗法	○	○	◎	○					
	3 因数分解	○	○	◎	◎					
	4 実数	○	○	◎	◎					
	5 根号を含む式の計算	◎	○	◎	○					
1	第2節 実数	6 不等式の性質	○	◎	○	○				
		7 1次不等式	○	◎	◎	○				
		章末問題		○	◎	◎	○			
		1 集合 2 命題と条件	○	○	◎	○				
2	3 命題とその逆・対偶・裏 4 命題と証明	3 命題とその逆・対偶・裏	○	◎	◎	○				
		4 命題と証明	○	◎	◎	○				
		章末問題	○	◎	◎	○				
		章末問題	○	◎	◎	○				
3	章末問題	章末問題	○	◎	◎	○				
		章末問題	○	◎	◎	○				
		章末問題	○	◎	◎	○				
		章末問題	○	◎	◎	○				

シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程)

教科	数学	科目	数学Ⅱ 数学Ⅲ 数学B	学年	5年	類型	スーパーグローバル理科系	単位数	3 1 2	単位
----	----	----	-------------------	----	----	----	--------------	-----	-------------	----

教科書名	改訂版 新編 数学Ⅱ	改訂版 新編 数学B	改訂版 新編 数学Ⅲ	出版社名	数研出版
------	------------	------------	------------	------	------

学期	月	指導計画			評価の観点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単元	内容		関	思	技	知		
一 学 期	4	数学Ⅱ 第3章 図形と方程式	5 円の方程式	6 円と直線		◎	○	○	<p style="text-align: center;">授 業 の 概 要</p> 「数学Ⅱ」では、図形と方程式、三角関数、指数・対数関数、微分法と積分法を学習します。「数学B」では、「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」より進んだ内容として、ベクトルと数列について学習します。「数学Ⅲ」では、これまでの知識を総合しながら、関数、極限、微分法について学習します。教科書だけでは入試に対応できませんから、問題集「クリアー」を使用しながら、学力の定着を図ります。	
		第2節 円 第3節 軌跡と領域	7 2つの円	8 軌跡と方程式	9 不等式の表す領域		○	◎		○
		第4章 三角関数	1 角の拡張	2 三角関数				◎		○
		第1節 三角関数	3 三角関数のグラフ	4 三角関数の性質			◎	○		○
	5	中間考査(5/15～5/18)	5 三角関数を含む方程式・不等式				◎	○		○
		第2節 加法定理	6 三角関数の加法定理	7 加法定理の応用			○	○		◎
	6	第5章 指数関数と対数関数	1 指数の拡張	2 指数関数			○	◎		○
		第1節 指数関数 第2節 対数関数	3 対数とその性質	4 対数関数			○	◎		○
		第6章 微分法と積分法	5 常用対数				○	◎		○
	7	期末考査(6/27～7/3)	1 微分係数	2 導関数とその計算	3 接線の方程式		○			◎
		第1節 微分係数と導関数	4 関数の増減と極大・極小	5 関数の増減・グラフの応用			◎	○		○
		第2節 関数の値の変化 第3節 積分法	6 不定積分	7 定積分	8 定積分と図形の面積		○	◎		○
夏季休業日(7/21～8/26)										
二 学 期	9	数学B 第1章 平面上のベクトル	1 ベクトル	2 ベクトルの演算		◎		○	<p style="text-align: center;">学 習 の 到 達 目 標</p> ・いろいろな関数の特徴をグラフで描いて捉えることができる。 ・微分・積分の考え方により、関数の値の変化や面積を求めることができる。 ・基本的な図形の性質や関係にベクトルを活用できる。 ・数列の規則性を把握できる。 ・数学的帰納法を用いて証明することができる。 ・いろいろな関数の極限を計算することができる。 ・三角関数及び指数、対数関数の導関数を求めることができる。	
		第1節 ベクトルとその演算	3 ベクトルの成分	4 ベクトルの内積		○	◎	○		
		第2節 ベクトルと平面図形	5 位置ベクトル				○	○		◎
			6 ベクトルの図形への応用				○	◎		○
	10	中間考査5年(10/2～10/5)					◎	○		○
		中間考査4・6年(10/9～10/12)	1 空間の点	2 空間のベクトル			○	○		◎
		第2章 空間のベクトル	3 ベクトルの成分	4 ベクトルの内積			◎	○		○
	11		5 ベクトルの図形への応用				○	○		◎
		第3章 数列	6 座標空間における図形				○	○		◎
		第1節 等差数列と等比数列	1 数列と一般項	2 等差数列			○	◎		○
第2節 いろいろな数列		3 等差数列の和	4 等比数列			○	○	◎		
12	期末考査(11/28～12/4)	5 等比数列の和	6 和の記号Σ			○	○	◎		
						○	◎	○		
	第3節 数学的帰納法	7 階差数列	8 いろいろな数列の和			◎	○	○		
冬季	冬季休業日(12/21～1/6)	9 漸化式	10 数学的帰納法			◎	○			
三 学 期	1	数学Ⅲ 第3章 関数	1 分数関数	2 無理関数		○	○	◎	<p style="text-align: center;">評 価 の 観 点</p> 関心・意欲・態度	
		第4章 極限	3 逆関数と合成関数				○	○		◎
	2	第1節 数列の極限	1 数列の極限	2 無限等比数列			○	◎		○
		第2節 関数の極限	3 無限級数				○	◎		○
			4 関数の極限(1)	5 関数の極限(2)			○	◎		○
	3	学年末考査4・5年(2/22～2/28)	6 三角関数と極限	7 関数の連続性			○	○		◎
第5章 微分法 第1節 導関数		1 微分係数と導関数	2 導関数の計算			◎	○	○		
	第2節 いろいろな関数の導関数	3 いろいろな関数の導関数	4 第n次導関数			○	◎	○		
		5 曲線の方程式と導関数				○	◎	○		

平成30年度
シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程)

教科	数 学	科目	数学研究Ⅰ 数学研究Ⅱ	学年	6 年	類型	スーパーグローバル文科系	単位数	2 3	単位
----	-----	----	----------------	----	-----	----	--------------	-----	--------	----

教科書名	自作教科書(数学研究Ⅰ・Ⅱ)	出版社名	宇和島南中等教育学校
------	----------------	------	------------

学期	月	指 導 計 画		評 価 の 観 点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単 元	内 容	関	思	技	知		
一 学 期	4	問題演習	1 式と証明			◎	○	授業の概要 数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学Bの範囲を系統的に学習します。センター試験対策、国公立大学2次試験レベルの問題を解きます。精選された問題を通して、考える力、応用力を身に付けます。	
			2 複素数と方程式		◎		○		
			3 図形と方程式		○		◎		
			4 三角関数		◎	○	○		
			5 指数・対数関数				◎		
	5	中間考査(5/15~5/18)					○		
	6	問題演習	6 微分法・積分法				◎		○
			7 ベクトル		○		◎		
			8 数列			◎	○		
			1 数と式		○		◎		
2 2次関数					○		◎		
7	問題演習	3 図形と計量		◎		○			
		4 集合と論理			○		◎		
		5 データの分析		◎			○		
		6 場合の数・確率		◎	○				
		7 図形の性質			◎	○			
8	問題演習	8 整数の性質		◎		○			
		1 2次方程式の解の判別 2 2次方程式の解と係数の関係 3 高次方程式		○		○	◎		
		4 文字係数を含む不等式・絶対値を含む不等式		○	○	◎			
		5 最大最小・2次方程式の解の存在範囲		◎			○		
		6 三角関数の方程式・不等式 7 指数関数			◎	○			
9	総合問題演習	8 三角比・三角関数 9 平面図形		○		◎			
		10 接線 11 極値		◎			○		
		12 最大最小 13 方程式の解の個数			◎	○			
		14 定積分で表された関数 15 面積の計算			○		◎		
		16 面積の等分 17 等差数列・等比数列					◎		
10	総合問題演習	18 Σの計算・階差数列		◎			○		
		19 いろいろな数列の和・群数列・漸化式 20 重複組み合わせ・二項定理			◎	○			
		21 反復試行の確率・条件付き確率			○	◎			
		22 命題と論証・整数 23 平面ベクトル		○			◎		
		24 空間ベクトル 25 ベクトル方程式			○		◎		
11	総合問題演習	26 整数解をもつ方程式 27 素数 28 超精選問題演習		◎	○	○			
		22 命題と論証・整数 23 平面ベクトル			○	○	○		
		24 空間ベクトル 25 ベクトル方程式			○	○	○		
		26 整数解をもつ方程式 27 素数 28 超精選問題演習			○	○	○		
		29 家庭学習			○	○	○		
12	総合問題演習	29 家庭学習			○	○	○		
		30 学年末考査4・5年(2/22~2/28)			○	○	○		
		31 学年末考査4・5年(2/22~2/28)			○	○	○		
		32 学年末考査4・5年(2/22~2/28)			○	○	○		
		33 学年末考査4・5年(2/22~2/28)			○	○	○		
二 学 期	1	総合問題演習	34 学年末考査4・5年(2/22~2/28)			○	○	○	
			35 学年末考査4・5年(2/22~2/28)			○	○	○	
			36 学年末考査4・5年(2/22~2/28)			○	○	○	
			37 学年末考査4・5年(2/22~2/28)			○	○	○	
			38 学年末考査4・5年(2/22~2/28)			○	○	○	
三 学 期	2	総合問題演習	39 学年末考査4・5年(2/22~2/28)			○	○	○	
			40 学年末考査4・5年(2/22~2/28)			○	○	○	
			41 学年末考査4・5年(2/22~2/28)			○	○	○	
			42 学年末考査4・5年(2/22~2/28)			○	○	○	
			43 学年末考査4・5年(2/22~2/28)			○	○	○	
3	総合問題演習	44 学年末考査4・5年(2/22~2/28)			○	○	○		
		45 学年末考査4・5年(2/22~2/28)			○	○	○		
		46 学年末考査4・5年(2/22~2/28)			○	○	○		
		47 学年末考査4・5年(2/22~2/28)			○	○	○		
		48 学年末考査4・5年(2/22~2/28)			○	○	○		

平成30年度
シラバス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程)

教科	数 学	科目	数学Ⅲ 数学研究Ⅱ	学年	6 年	類型	スーパーグローバル理科系	単位数	4 2	単位
----	-----	----	--------------	----	-----	----	--------------	-----	--------	----

教科書名	新編 数学Ⅲ 自作教科書 数学研究Ⅱ	出版社名	数研出版 宇和島南中等教育学校
------	--------------------	------	-----------------

学期	月	指 導 計 画		評 価 の 観 点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単 元	内 容	関	思	技	知	
一 学 期	4	第5章 微分法 第1節 導関数 第2節 いろいろな関数の導関数	1 微分係数と導関数 2 導関数の計算	○		◎		授 業 の 概 要 「数学Ⅲ」では、これまでの知識を総合しながら、関数、極限、微分法、微分法の応用、積分法、積分法の応用、複素数平面について学びます。教科書だけでは入試に対応できませんから、問題集「クリアー」を使用しながら、学力定着を図ります。 「数学研究Ⅱ」では、センター試験に対応するため、問題演習で実力を養います。
			3 いろいろな関数の導関数	○	○	◎		
		4 第n次導関数 5 曲線の方程式と導関数	○	◎	○			
		6 接線の方程式 2 平均値の定理 3 関数の値の変化	○	◎	○			
	5	中間考査(5/15～5/18)	4 関数のグラフ	○		◎	○	
			5 方程式、不等式への応用	○	○	◎		
	6	第7章 積分法とその応用 第1節不定積分 第2節 定積分	6 速度と加速度 7 近似式	◎	○	○		
			1 不定積分とその基本性質 2 置換積分法と部分積分法	○	◎			
			3 いろいろな関数の不定積分	○	○	◎		
			4 定積分とその基本性質	○		◎		
7	第3節 積分法の応用	5 置換積分法と部分積分法 6 定積分のいろいろな問題	○	○	◎	○		
		7 面積 8 体積		○	◎	○		
		9 道のり 10 曲線の長さ	○	◎		○		
		8 夏季休業日(7/21～8/26)						
9	第1章 複素数平面 第2章 式と曲線 第1節 2次曲線	1 複素数平面 2 複素数の極形式	○	○	◎			
		3 ド・モアブルの定理 4 複素数と図形	○	◎				
		1 放物線 2 楕円		○	◎			
		3 双曲線 4 2次曲線の平行移動 5 2次曲線と直線		◎	○	○		
二 学 期	10	中間考査5年(10/2～10/5) 問題演習 中間考査4・6年(10/9～10/12) 問題演習	6 曲線の媒介変数表示 7 極座標と極方程式 8 コンピュータの利用	○	◎	○		
			1 2次方程式の解の判別 2 2次方程式の解と係数の関係 3 高次方程式	◎	○	○		
			4 文字係数を含む不等式・絶対値を含む不等式	○	◎			
			5 最大最小・2次方程式の解の存在範囲	○	○	◎		
	11	6 三角関数の方程式・不等式 7 指数関数 8 三角比・三角関数 9 平面図形 10 接線 11 極値 12 最大最小 13 方程式の解の個数 14 定積分で表された関数 15 面積の計算 16 面積の等分 17 等差数列・等比数列 18 Σの計算・階差数列	6 三角関数の方程式・不等式 7 指数関数 8 三角比・三角関数	○	◎	○		
			9 平面図形 10 接線 11 極値 12 最大最小	○	○	◎		
			13 方程式の解の個数 14 定積分で表された関数 15 面積の計算			◎	○	
			16 面積の等分 17 等差数列・等比数列 18 Σの計算・階差数列	○	○	◎		
	12	期末考査(11/28～12/4)	19 いろいろな数列の和・群数列・漸化式 20 重複組み合わせ・二項定理	○	○	◎		
			21 反復試行の確率・条件付き確率 22 命題と論証・整数 23 平面ベクトル	○	○	◎		
24 空間ベクトル 25 ベクトル方程式 26 整数解をもつ方程式 27 素数			○	◎	○			
28 超精選問題演習			○	◎	○	○		
三 学 期	1	数学Ⅲ総合演習 1 関数 2 極限 3 微分法 4 積分法 家庭学習	28 超精選問題演習	○	◎	○	○	
			1 関数 2 極限	○	◎	○	○	
			3 微分法 4 積分法	○	○	◎	○	
			家庭学習	○	○	○		
2	学年末考査4・5年(2/22～2/28)		○	○	○			
			○	○	○			
3			○	○	○			
			○	○	○			